

# 機船船びき網漁業

## 操業中の主な特徴等

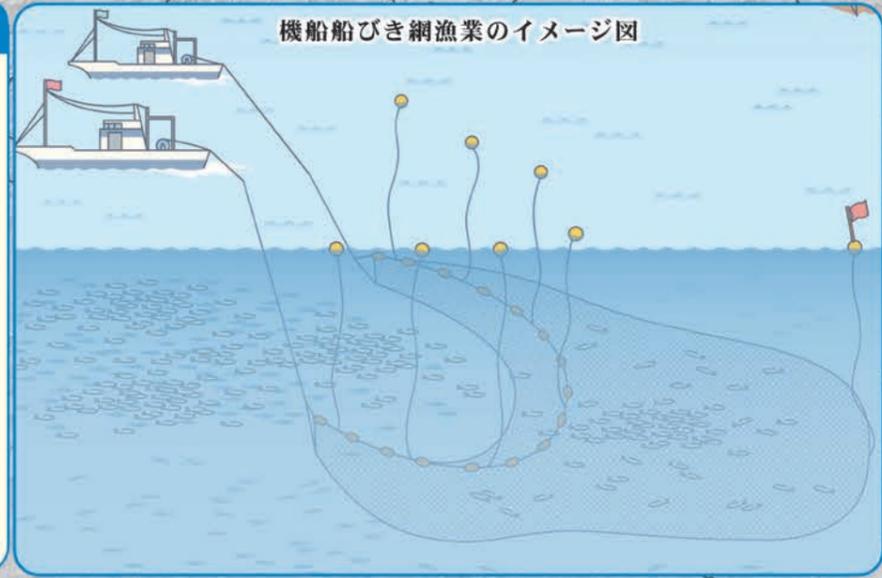
- ・揚網中の漁船は、**見張りが十分にできない**ことがあります**注意が必要です**。
- ・曳網中および揚網中の漁船は急に舵を切ると転覆の可能性があるため**操船の自由が利かず、避航動作が困難**な場合があります**注意が必要です**。
- ・2隻で曳網している場合、**その間を航行すると非常に危険**です。
- ・**網口には浮標が設置され、また網の後端には旗のついた浮標が設置されている**場合があります。**漁船と浮標の間を航行すると非常に危険**です。
- ・航海灯等の他に**黄色などの回転灯**を点けている漁船が多く、**見張りの目安**になります。

## 機船船びき網漁業とは

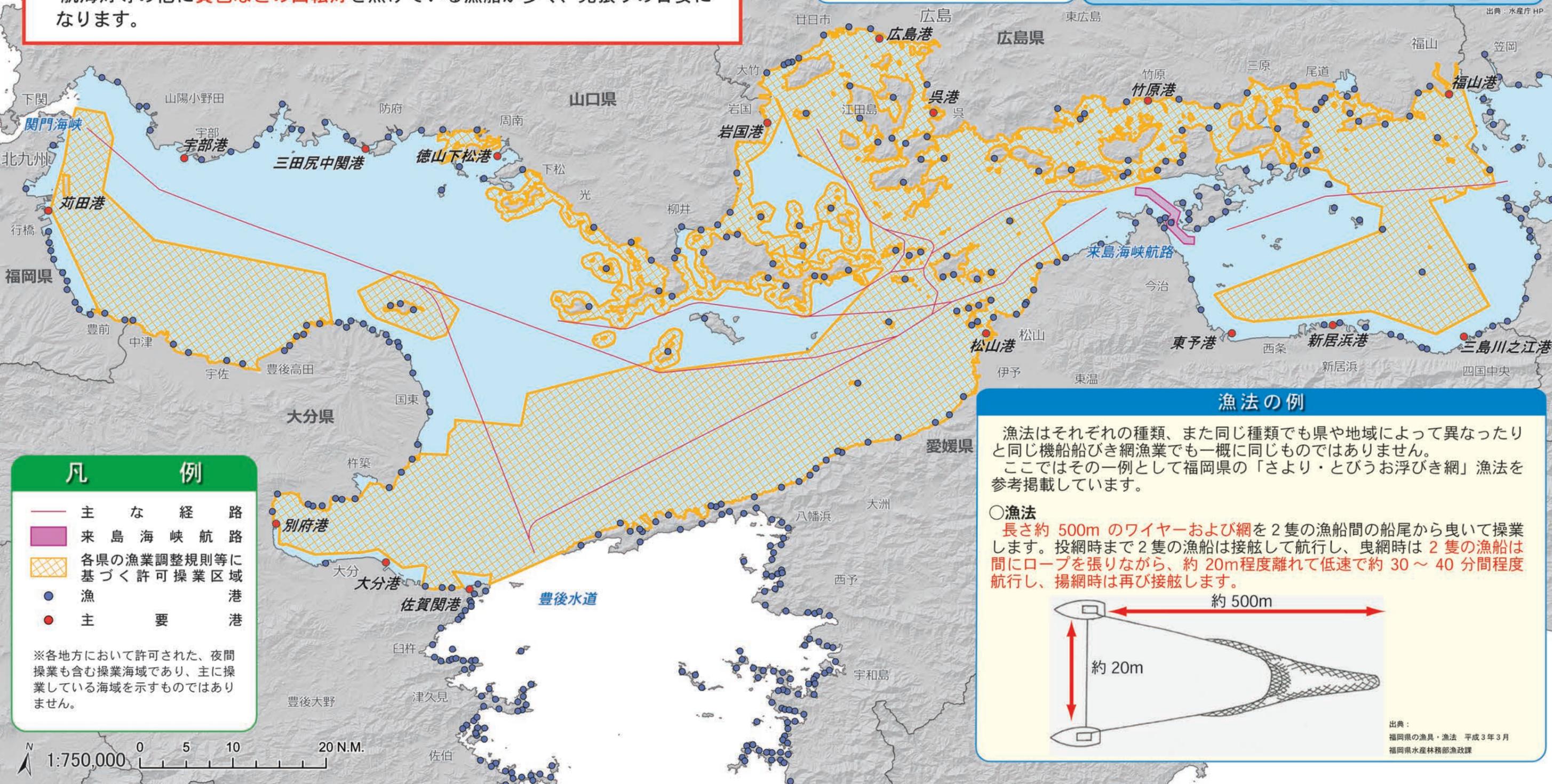
船を拠点として網をひき寄せるか、1隻または2隻間の船尾に網をひき廻して、表層または中層の魚を獲る漁業です。

瀬戸内海西方海域で行われる機船船びき網漁業は、主に船型3～10トン未満の漁船2隻で行われることが多く、それぞれに1～2名が乗っています。漁は地域によって様々な時期、時間帯に行われます。

機船船びき網漁業のイメージ図



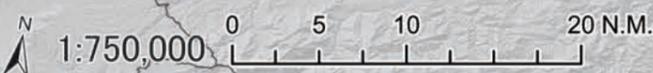
出典：水産庁 HP



## 凡 例

- 主 な 経 路
- 来 島 海 峡 航 路
- ▨ 各県の漁業調整規則等に基づく許可操業区域
- 漁 港
- 主 要 港

※各地方において許可された、夜間操業も含む操業海域であり、主に操業している海域を示すものではありません。

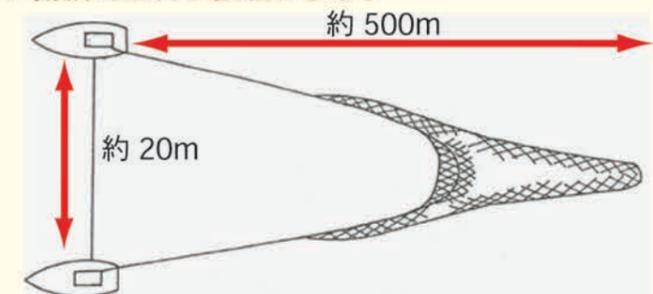


## 漁法の例

漁法はそれぞれの種類、また同じ種類でも県や地域によって異なったりと同じ機船船びき網漁業でも一概に同じものではありません。ここではその一例として福岡県の「さより・とびうお浮びき網」漁法を参考掲載しています。

### ○漁法

長さ約 500m のワイヤーおよび網を2隻の漁船間の船尾から曳いて操業します。投網時まで2隻の漁船は接舷して航行し、曳網時は2隻の漁船は間にロープを張りながら、約 20m程度離れて低速で約 30～40 分間程度航行し、揚網時は再び接舷します。



出典：福岡県の漁具・漁法 平成3年3月 福岡県水産林務部漁政課

# 刺し網漁業

## 操業中の主な特徴等

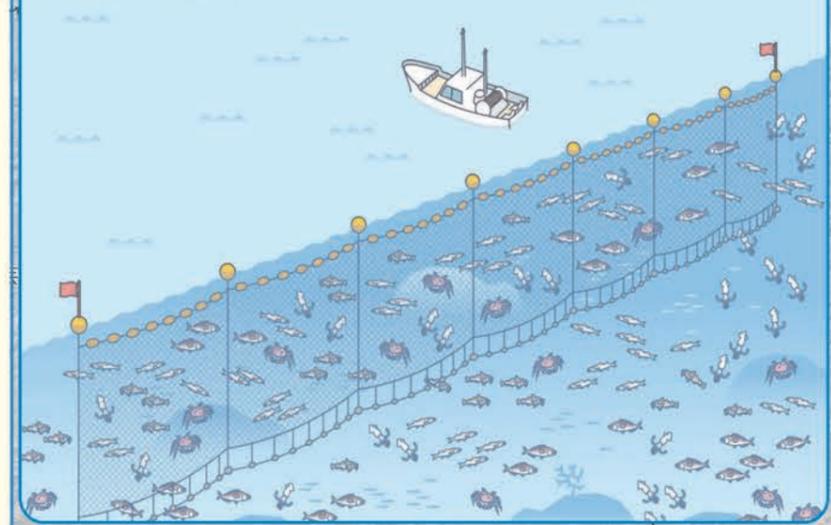
- ・揚網中の漁船は**見張りが十分にできない**ことがあります**注意が必要です**。
- ・投揚網中の漁船は急に舵を切ると転覆の可能性があるため**操船の自由が利かず、避航動作が非常に困難**な場合があります**注意が必要です**。
- ・投揚網中の漁船はワイヤーの張りや海底障害物への網のかかり等から、**後進することがあり注意が必要です**。
- ・**網には両端または一定の間隔で浮標が設置されています**ので、十分に注意して避航して下さい。
- ・地域・対象魚種によって**網の長さ、丈および投網水深は様々**です。
- ・航海灯等の他に**黄色などの回転灯**を点けている漁船があり目安になります。

## 刺し網漁業とは

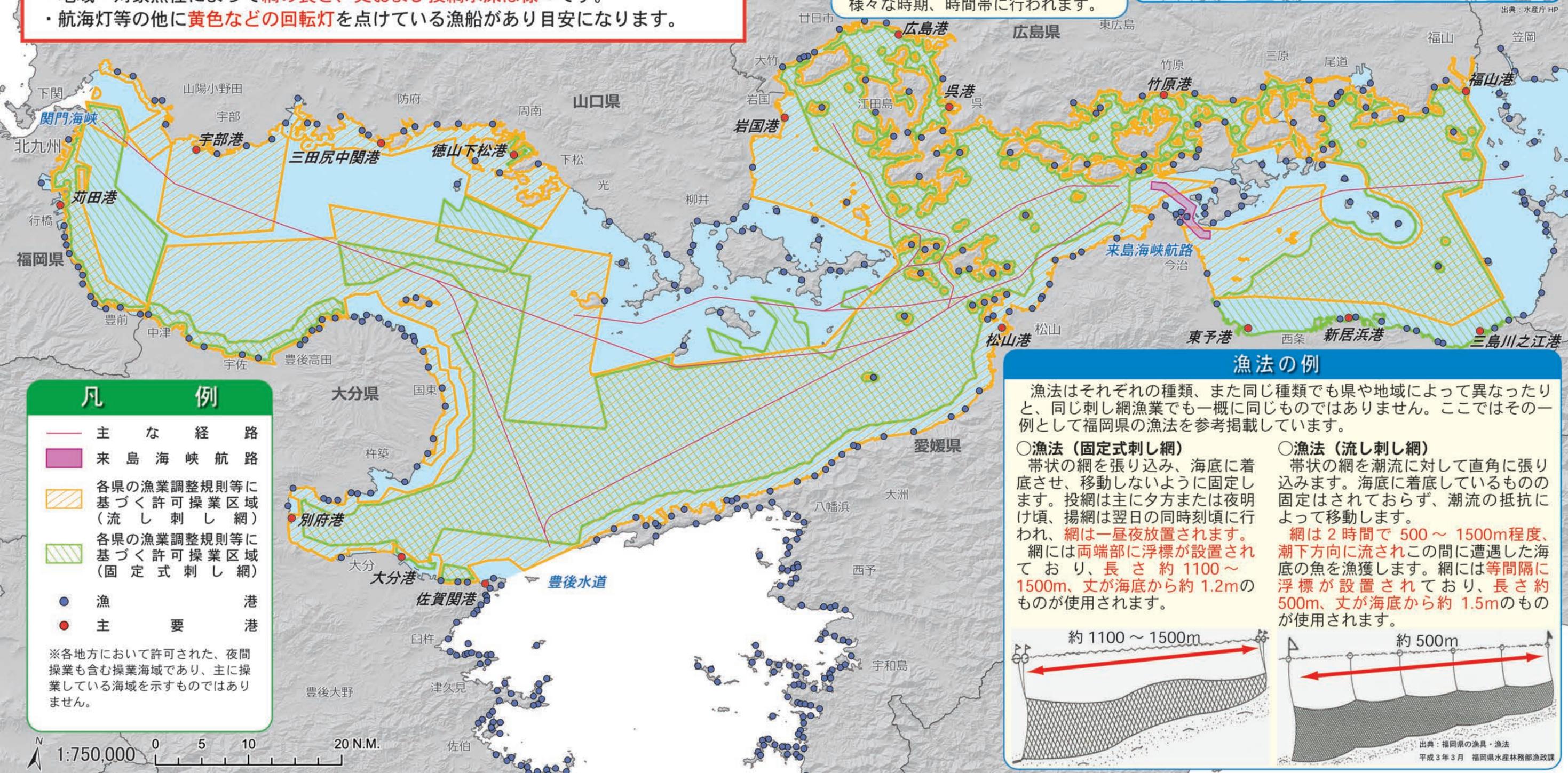
魚の遊泳する場所を遮断するように带状の網を仕掛け、網目に刺させたり、絡ませたりして魚を獲る方法です。網を錨などで固定するものや、固定せずに海面に漂わせるものがあります。

瀬戸内海西方海域で行われる刺し網漁業は、主に船型5トン未満の漁船4~5隻（曳船2隻・補助船2~3隻）で行われ、各船に1~2名が乗っています。魚は地域によって様々な時期、時間帯に行われます。

## 刺し網漁業のイメージ図



出典：水産庁 HP



## 凡 例

- 主 な 経 路
- 来 島 海 峡 航 路
- 各県の漁業調整規則等に基づく許可操業区域 (流し刺し網)
- 各県の漁業調整規則等に基づく許可操業区域 (固定式刺し網)
- 漁 港
- 主 要 港

※各地方において許可された、夜間操業も含む操業海域であり、主に操業している海域を示すものではありません。

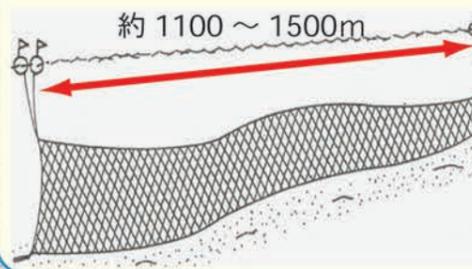
1:750,000 0 5 10 20 N.M.

## 漁法の例

漁法はそれぞれの種類、また同じ種類でも県や地域によって異なったりと、同じ刺し網漁業でも一概に同じものではありません。ここではその一例として福岡県の漁法を参考掲載しています。

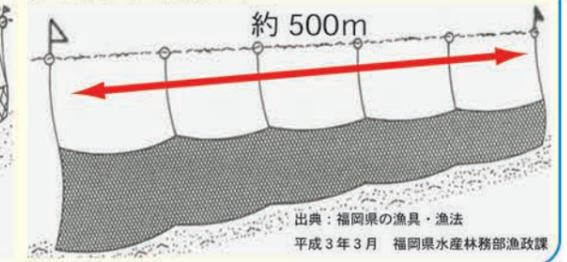
### ○漁法 (固定式刺し網)

带状の網を張り込み、海底に着底させ、移動しないように固定します。投網は主に夕方または夜明け頃、揚網は翌日の同時刻頃に行われ、網は一昼夜放置されます。網には両端部に浮標が設置されており、長さ約1100~1500m、丈が海底から約1.2mのものが使用されます。



### ○漁法 (流し刺し網)

带状の網を潮流に対して直角に張り込みます。海底に着底しているものの固定はされておらず、潮流の抵抗によって移動します。網は2時間で500~1500m程度、潮下方向に流されこの間に遭遇した海底の魚を漁獲します。網には等間隔に浮標が設置されており、長さ約500m、丈が海底から約1.5mのものが使用されます。



出典：福岡県の漁具・漁法 平成3年3月 福岡県水産林務部漁政課